ISSN 2432-4817

2023 年度

第 8 回国際 ICT 利用研究学会全国大会

IIARS2023

国際 ICT 利用研究学会

全国大会講演要約集

2023 年 12 月 3 日(日)

対面/オンライン会議

主催 国際 ICT 利用研究学会

FUJITSU

その人は、
DXと笑顔を叶える人。

日本の隅々まで幸せにしたい。
その思いを胸に、日本全国で活動する、
富士通JapanのDX専門人材。
たとえば、北海道の神恵内村にも、
ひとりの社員が派遣されています。
産業、教育、医療、交通など、
DXにできることはたくさんあります。
でも、いちばん大切なのは、村の人々を
笑顔にすることだとその人は言います。

日本の
幸せの
隅々に。

神恵内村のDX篇CM

富士通Japan株式会社

お問い合わせ先：お客様総合センター 0120-835-554
ご利用時間：9時～12時、13時～17時30分
（土曜日・日曜日・祝日・当社指定の休業日を除く）

WebClass は毎日の学びと、学修成果の可視化をサポートします。

e ポートフォリオ・コンテナ

主体的に学習に取り組むための
学習支援フレームワーク

学習と評価の一体化

学習プロセスを見える化

成長を見える化

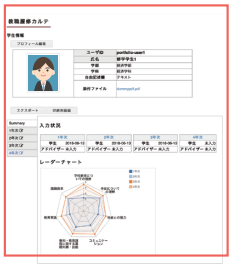
振り返りを強化

成長の可視化

修学カルテプラグインを追加することで、
教職履修カルテや定期的な目標設定と
振り返りを記録できます。

修学カルテ

定期的な目標設定と振り返りなど用途に応じた
画面を作成



学習記録ビューア

各授業に散在する成果物を一か所で
まとめて確認

授業支援

資料配布、レポート課題、掲示板など豊富な機能を用意

ラーニング・カンパニーでありたい。

日本データパシフィック株式会社

〒186-0002 東京都国立市東 1-4-15 国立 KT ビル
TEL：042-573-6721　FAX：042-573-6728
www.datapacific.co.jp

U-Assist 大学生のためのe-Learningコンテンツシリーズ

2023年7月
リリース

問題解決のための
統計学基礎 記述統計

著作：立正大学 教授 渡辺美智子

PC・タブレット
スマホ対応！

この教材では、統計学とくに記述統計についての基本的な知識を学ぶことができます。
記述統計について、基本的な考えや特徴を学習して、問題解決に活かす基礎を身につけましょう。

特徴

- 統計学とくに記述統計の基本的な知識を丁寧に解説しています。
- グラフや図解を豊富に用いた解説が、ほぼすべてのページにあります。
- サンプルデータをダウンロードして、関数を使った簡単な計算を実践することができます。
- 各章の学習画面はトピックごとに区切り、スクロールをして読み進めることができます。
- 既に知っている内容であれば、さらにスクロールをして目的のページへ進むこともできます。
- 学習後は「修了テスト」を行うことで、理解を深める構成になっています。
- サイトライセンスまたはクラウド配信サービスでのご利用が可能です。

内容（目次） 学習時間の目安 5～8時間

第１章 統計分析の基礎 - 統計分析とは -【パートⅠ】
第１章 統計分析の基礎 - 質的データの分析（表とグラフ）-【パートⅡ】
第２章 基本統計量とその活用 - 分布の中心位置（代表値）-【パートⅠ】
第２章 基本統計量とその活用 - 分布の広がりの大きさを測る指標 -【パートⅡ】
第３章 ２つのデータ項目（変数）間の関連性の分析
第４章 時系列データの分析
第５章 統計表の作成
修了テスト

無料

コンテンツのモニター利用ができます！

弊社リモートアクセス用サーバに接続していただき、実際にコンテンツをご覧いただけます。
インターネット環境があればご利用いただけます。お気軽にお申込み下さい。

お申込みはこちら https://www.datapacific.co.jp/contact/document.html

日本データパシフィック株式会社 https://www.datapacific.co.jp/ 東京都国立市東1-4-15 国立KTビル TEL：042-573-6721

プログラム

2023 年 12 月 3 日（日）

09:30−	受付開始
10:30−12:00	分科会 I 部（A、B、C 会場）
12:00−13:00	昼休み、役員懇談会（A 会場）
12:30−13:00	ポスターセッション（ポスター会場）
13:00−14:30	分科会 2 部（A、B、C 会場）
14:45−16:00	分科会 3 部（A、B、C 会場）
16:30−18:30	懇親会（無料）

分科会会場

A（D201）、B（A301）、C（A302）

ポスター会場（I F 受付付近）

共 催

（株）ソリッドレイ研究所

日本データパシフィック（株）

（株）内田洋行

富士通 Japan（株）

（株）カンファレンスサービス

後 援

一般社団法人 国際ICT利用研究機構

一般社団法人 国際応用情報学研究機構

株式会社 OME

A1　　会場：A 会場　　10:30－12:00
　　座長：白木洋平（立正大学）

A1-1　小山田芽衣(埼玉女子短期大学)

COVID-19 のパンデミックにより学校教育においてオンデマンド型授業など ICT を活用した教育が一気に浸透した。ICT 教育について新たな課題が生まれた。本研究では、ICT 教育が進んだことにより生まれた「地域による教員の ICT 指導力の格差」や「教員に対する研修制度の効果」などの課題を調査し、その課題に対する解決方法について提言を試みる。また、今回は思考力や構想力、読解力などすべての科目で学力の基礎となる国語にフォーカスを当てた。

A1-2　青木佑介(日本大学)

本稿では学習塾における ICT 教材の活用 その利点と欠点 また それにおける問題点について考察する。

A1-3　神崎秀嗣(秀明大学)

コロナ禍で筆者が実践したオンライン講義と、教員や同級生とのエンゲージメント・リレーションについて主に質的研究を行ったので報告する。

A1-4　神崎秀嗣(秀明大学)

教員採用試験の競争倍率は年々低下しており，質の高い教育の確保に危機が訪れようとしている。演者は教職養成課程の 2, 3 年生を対象に理科教育の模擬授業教育に 3 年間従事していた。文部科学省の「令和の日本型学校教育」(1)の中で，「教師や学校は，変化を前向きに受け止め，求められる知識・技能を意識し，継続的に新しい知識・技能を学び続けていくことが必要である」と期待されている。また近年の新型コロナ感染症によって，遠隔授業など講義方法も変化している。また教員採用試験の際には，模擬授業を課す教育委員会も多いなかで，模擬授業スキル向上にはいくつかの課題がある。今回筆者は，教員としての生物学の知識の定着とプレゼンテーションスキルに着目した。またその際，構成的グループエンカウンターで授業改善を行ったので報告する。

A1-5　藤坂直輝,山田光穂,石井英里子,星野祐子(東海大学，東海大学，鹿児島県立短期大学，東海大学)

初心者がプログラミングを学ぶ際，コンパイルエラーのメッセージを理解しにくいことがある．これは異なるプログラミング言語の文法を混合させた誤りや，全角文字を使用した誤りをコンパイラが明示的に指摘しないために起こる．本研究では誤りをわかりやすく提示する Web システムの開発を行っている．また，初心者がより誤りに気づきやすいメッセージの提示法を模索するために視線情報を活用できると考え，視線分析の検討を行った．

A1-6　谷口公太(大東文化大学)

本論文では大学生を研究対象にスマートフォンの利用状況とそれによる学習へのデメリットについて検討する。

A2　　会場：A 会場　　13:00－14:30
　　座長：福田真規夫（太成学院大学）

A2-1　山本理奈(埼玉女子短期大学)

ソーシャル・ネットワーク・システムが浸透した現代社会では恋愛においても LINE などスマホアプリ利用が必須となっている。恋愛相手との出会い方においても「出会い系アプリ」が普及している。出会い系アプリの特徴は、恋愛相手を選択でき、場所を問わずいつでも恋愛相手を選ぶことができる。本研究では出会い系アプリ普及に伴い結婚率は上昇するのか、そして出会い系アプリはどのような変化するかについて明らかにすることを試みる。

A2-2　岩佐周,森大河,星野祐子,石井英里子,山田光穂(東海大学，キャノン IT ソリューションズ株式会社，東海大学，鹿児島県立短期大学，東海大学)

先行研究では視線情報を用いた観光情報検索キーワードの推薦を行うシステムを開発し，視線を活用することで，ユーザの嗜好が推薦結果に反映されることが示唆された．本研究では、関連ニュースキーワードを推薦するシステムを提案し，試作を行った．観光地ニュースを例としたシステムの動作検証より，ユーザの Web ページ閲覧履歴および注視文章から，ユーザ嗜好を考慮した観光地近隣のニュース検索キーワードの推薦ができることが示唆された．

A2-3　山﨑一徳、田中雅章、奥原俊(愛知みずほ大学，愛知医療学院短期大学，三重大学)

教員が学生の学習状況や進捗を記録・評価するためのツール「大福帳」において、教員のコメントは重要な役割を果たしている。我々の研究グループは、生成 AI 技術を用いてデジタル大福帳の教員コメントを自動生成する試みを行った。AI による教員コメントの利点として、大規模な授業や多くの学生へのフィードバックが効率的に行えることが挙げられる。しかし、AI のコメントは人間の教員のコメントと比べて、個人に寄り添った対応が難しいことや、文脈による誤解が生じる可能性があるという課題も明らかになった。

A2-4　新屋水萌(埼玉女子短期大学)

スマートフォンで商品を購入･販売することができるようになった。現在、日本は少子高齢化が進んでおり、取引範囲を大幅に広げることができることは今後の日本に重要なことである。本研究では、若者の EC サイトの活用法やイメージについてアンケート調査を行い、開業に至るまで行動を起こせない理由や開業するうえでの工夫やサービスについて調べ、いかにすれば、今後 EC サイトがより発展していくかの提言を試みる。

A2-5　新井淑稀(大東文化大学)

ここ数年、携帯端末で本を読む人がかなり増えてきているのを感じる。作品の電子化は、出版業界にどのような影響を与えるのだろうか。また、著作者にとっての影響も考察し、今後の展望を示す。

A2-6　神崎秀太(日本大学)

本研究では，就職活動における生成 AI アプリの利用について，その利点と課題点を明らかにし，求職者が効果的に活用するための方法ついて考察する。そしてまた，学生に対してアンケートを実施し，実際の利用事例やユーザーのフィードバックを通じて，就職活動における生成 AI の有用性と適切な使い方について考察し，今後の可能性について論じていく。

A3　　会場：A 会場　　14:45－16:00
　　座長：青木和昭（立正大学）

A3-1　中目雄麻(日本大学)
本稿では，健康の維持を効率的且つ堅実に達成するために，ダイエット管理アプリの現状，また，ダイエット管理アプリを利用する上での利点や課題点を若者の立場から考察し，ダイエット管理アプリが健康維持にもたらす影響について論ずる。

A3-2　柴田隼弥(日本大学)
近年、若者のテレビ離れや社会の急速なデジタル化が進んでいる。本稿では、大学生のデジタル機器の使用状況と依存性を調査することで、デジタルデトックスの必要性とその可能性を提案することを目的とするものである。

A3-3　小山歩夏(埼玉女子短期大学)
近年、世界では食品ロスが大きな問題となっている。環境を守るためにも食品ロスを削減することが求められている。一部食品販売店では、食品ロスになった商品を通販サイトで販売しており、食品ロス削減の対策についても調査を進める。本研究では、若い世代の食品ロスの知識と、通販サイトへの認識についてアンケート調査を行い、通販サイトの活用は食品ロスに効果的なのか、について明らかにすることを試みる

A3-4　對馬朱理,西川友子(山形県立米沢女子短期大学)
本研究は，青森県つがる市の公共施設におけるバリアフリートイレの設置状況及びバリアフリートイレの機能分散化の現状を把握することを目的とした。つがる市の公共施設 20 施設を調査対象施設とした。その結果，20 施設のうち 11 施設のみ調査を行えた。バリアフリートイレは 6 施設にのみ設置されていた。バリアフリートイレの機能分散化はすべての施設で行われていなかった。この調査研究の成果はつがる市におけるバリアフリートイレの機能分散化の推進の一助となる。

A3-5　次郎丸沢(株式会社カンファレンスサービス)
本学会が主催する初の国際会議である The 1st International Conference on ICT Application Research (IAR 2023)が福井県あわら市にて開催された。本稿ではその開催報告を行う。

B1　　会場：B 会場　　10:30－12:00
　　座長：高見友幸（大阪電気通信大学）

B1-1　荒井彪雅,小金井敦弘(大東文化大学)
近年、生活する上で欠かせない存在となりつつある AI(人工知能)は世界のどの人でも簡単に利用できる身近なものとなっている。AI はどこまで進化して、これから何処に向かっていくのかを日本だけでなく、世界各国が注目している。これから、私たちは AI とどう向き合っていくのかについて考えていきたい。

B1-2　福島健輔,王有仟,庄野莉央,竹谷実麻,内田真人(大東文化大学)

株式会社とは、多額の資金(資本)を必要とする。研究という機会を通じて、将来の資産蓄積のための方法や貯蓄だけではない、投資することの価値を学びながら体験してみたいと考えた。また、プログラムも学習したのでそれを利用した研究もしたい。今回はコロナ禍の期間に注目して、航空業界の代表的な 2 社の株価を自分たちで作成したプログラムで分析していこうと思う。本研究を通じて、投資への距離感が近くなることを期待する。

B1-3　池田悠介,青木和昭(立正大学)

立正大学で開講されている実験科目 3 つと座学科目 3 つで授業の満足度とその要因に関するアンケートを実施した。この目的は、実験科目と座学科目の授業特性の違いとその要因の関係を見ることである。データを分析して言えることは、コミュニケーションが活発なほど授業の満足度は高いということである。特に、コミュニケーションを取る機会が少ない座学科目は実験科目よりも全体的に満足度が下がっていた。

B1-4　飛田康成(日本大学)

本稿では，特に地域活性化の担い手となる若者にアンケート調査を実施することで，公共交通機関の利用を促進するために何が必要であるかを調査し，地域活性化にとって必要なものを検証するものである。

B1-5　関琉生誠(立正大学)

本研究では、土壌微生物計測の簡易計測手法を提案し、土壌評価の新たなアプローチを提供することを目指す。具体的には、微生物を含むプレートの画像を解析し、その画像の色の濃さに基づいて微生物の活性度を簡易に推定する手法を開発する。

B1-6　野田雅喜(日本大学)

本研究では主に若年層に向け、公園に対して何を求めるか、何を理由に訪れるかなどの調査を行い、同時に実際の公園利用者の年齢層を調べ、結果から若年層に向けて ICT を活用した公園利用の増進方法について検討する。

B2　会場：B 会場　13:00－14:30

座長：鈴木治郎（信州大学）

B2-1　佐藤圭樹(立正大学)

人工衛星データから NDVI を用いて植生指標を算出し植生が土砂災害に及ぼす影響について研究する。

B2-2　小宮優華,青木和昭(立正大学)

近年，日本では自殺者数が増加している．自殺の要因として，社会的要因や経済的要因が最も関係しているが，一部の論文では気象的要因も関係があるとの報告がされている．本研究では，各都道府県で月別のデータを用いて自殺者数と気象要素, 月別自殺率の季節変動を解析し, その関係性を明らかにすることを目的とする.

B2-3　島田駿,後藤真太郎,佐藤響平,田中優也(立正大学)

2019 年令和元年東日本台風によって被害を受けた、埼玉県東松山市早俣地区およびあずま町を対象に、iRIC による水位の再現性向上を目的とした研究を行った。DEM による解析では河床の地形を再現できていないことから、水文補正標高を用いた再現性の向上について検証した。河川の流下能力をより正確に再現することはできたが、水位の変化については実測値と大幅にずれる結果となった。

B2-4　髙橋和真(大東文化大学)

本稿では、パソコン業界の進化について昔から成立し続けている法則の“ムーアの法則”に着目し、ムーアの法則の限界とこれからのパソコン業界の動向と対応について研究する。

B2-5　石井大稀,青木和昭(立正大学)

令和元年 10 月 12 日から 13 日にかけて、台風 19 号の上陸に伴う降水が原因で、長野県千曲川が氾濫した。長野市穂保地域は堤防決壊（10 月 13 日 01:08 越水、その後決壊:06:00 発表）であった。この氾濫に伴って約 1,541ha の範囲が浸水し、被災住宅数 4296 戸、被害額は 2,766 億 7,400 万円（令和 2 年 9 月 18 日時点）であった。そのうち、長沼地区での住宅被害は 939 戸であった。この時、千曲川の氾濫が起こるとより大きい被害が出ることが見込まれるため、千曲川の支流の八木沢川の流入を防ぐために八木沢川樋門を閉めた。しかし、樋門を閉めなかった場合、被害が拡大していたか、あるいは抑えられたかどうかについては、検討の余地があると考えられる。近年、水害による大規模災害が多発しているため、樋門や水門の開閉による影響を検討することは重要である。そこで、本研究では大きな被害が発生した令和元年台風 19 号を対象として、河川氾濫に対する八木沢川樋門が果たす役割を解明することを目的とする。iRic を用いた氾濫シミュレーションを用いて、樋門の開閉のそれぞれをシミュレーションし、被害の差を検証する。

B2-6　白木洋平,一ノ瀬俊明,平野勇二郎,大西暁生(立正大学, 国立環境研究所, 国立環境研究所, 横浜市立大学)

本研究では東京都区部を研究対象地域とし、まず地理情報システム（GIS）を活用して都市の三次元構造を明らかにするとともに、得られた三次元構造を利用して日射量解析を行った。次に、日射量解析より得られた全天日射量分布とリモートセンシングによって得られた地表面温度情報を比較し、全天日射量が地表面温度のどのような影響を与えているか評価を行った。

B3　会場：B 会場　14:45－16:00
座長：鎌田光宣（千葉商科大学）

B3-1　名取賢冴(立正大学)

海面上昇によって東平安名崎にあるクサトベラとシバ植物がどのくらい被害を受けるのか

B3-2　渋谷奈菜子(日本大学)

私は、近年社会問題となっている、日本における睡眠の現状と課題をテーマに研究しました。睡眠の ICT 活用や取り組みをあげ、アンケート調査を行い、睡眠問題の課題について考えたことを、発表します。また、当日は PowerPoint にまとめ発表します。

B3-3　瀧澤拓海,青木和昭(立正大学)

本論文は apple watch を用いて睡眠前の光条件による睡眠の質の違いを計測する方法を検討するものである。近年の IT 機器と機械学習の技術向上により、ウエラブル端末で睡眠の質の推定が行われるようになった。本研究では教師データなしの状態で睡眠の光条件による変化を先行研究をもとに、ローレンツプロットや統計手法を用いて睡眠を分類し、睡眠の変化を計測する方法を検討した。

B3-4　中村洋介,伊藤南奈美(福島大学，山形県庁)

市町村の本庁舎の災害対策本部は、自然災害等の発生や、発生が予見される場合において設置され、被害の防止の軽減や応急・復旧対策の迅速化等を目的としている。災害発生時における対策の拠点となる市区町村庁舎が被災して機能を発揮できなった場合、災害復旧が遅れるなどの大きな損害が発生する。そこで本研究では日本全国の市町村の本庁舎に焦点を当て、活断層との距離や地盤条件などについて調査を行った。

B3-5　高見友幸(大阪電気通信大学)

日本書紀の紀年や宝算等の「数値」は学術的には無視された状況にある。これは，たとえば，神武天皇即位が紀元前 660 年，孝安天皇の在位期間 102 年，垂仁天皇の宝算 140 歳等の記載に対して，納得のいく解釈ができないためである。本研究では，この点を大きく見直し，日本書紀に記載される数値，紀年，干支を尊重して，「数値解析」を行った。

C1　会場：C 会場　10:30－12:00

座長：小堺光芳（埼玉女子短期大学）

C1-1　増渕竣亮,川鍋温人(大東文化大学経営学部，大東文化大学経営学部)

近年では、スマートフォンやカードなどを用いることによって、様々な決済が簡単に行える時代となった。日本においては、政府による施策や新型コロナウイルスの感染拡大が後押しとなり、キャッシュレス決済がより身近なものとなった。本稿では、日本と世界のキャッシュレス決済の現状を把握、比較し、日本におけるキャッシュレス決済の普及の妨げになっているものを明らかにする。

C1-2　長岡泉希(埼玉女子短期大学)

宅配便取扱個数は年々増加を続け、不在による再配達となるケースも増加傾向にある。宅配サービスにおける諸問題解決のため、コンビニエンスストアのレジでの受け取りや宅配便ロッカーサービスなどの利用がある。既存のサービスの浸透を促すために、ポイント還元やキャッシュバックなど新サービスが実践されることで宅配サービスの負荷軽減が進む。本研究では今後も宅配物が届き続けるために必要なことを明らかにすることを試みる。

C1-3　上山俊幸(千葉商科大学)

有価証券報告書は，企業と投資家との対話を促進するためにも，その記述は投資家の理解が得られるよう丁寧である必要がある。これまで，自動車産業の研究開発に関する研究を行ってきたが，有価証券報告書の財務情報と説明情報の関連性を分析する中で，その信頼性に疑問を持つに至り，有価証券報告書の信頼性を議論した。

C1-4　上杉汐陽,青木和昭(立正大学)

本研究では、 産業廃棄物の不法投棄量の中でも最も割合が高い建築廃棄物に着目し、産業廃棄物の不法投棄量、建物の新築数、建て替数との統計解析を行い、関係性を空間的に明らかにすることを目的とする。

C1-5　新野悠,西川友子(山形県立米沢女子短期大学)

東北地方の女子大学生のマイボトルの使用状況や理由、保有本数などを明らかにするため、横断研究を実施した。その結果、約 6 割の女子大学生がマイボトルを使用しており、飲料代の節約が最も多い使用理由であった。マイボトルの使用頻度と保有本数には統計的に有意な関係は見られなかった。約 4 割の女子大学生がマイボトルを使用しておらず、マイボトルの洗浄が面倒であることが最も多い使用しない理由であった。

C1-6　川城沙奈,青木和昭(立正大学)

近年、人口増加が停滞しているにも関わらず、都市郊外での都市的土地利用の拡大が止まらない。また、都市化によって急激にその環境が変化している郊外の農村部では、長い歴史を通じて形成されてきた文化や風景の喪失が懸念される。特に大都市周辺の土地利用の非計画的な変化が問題であると同時に、地域固有の環境（住みやすさ）がどこに安定的に残されているのか、詳細に把握されていないことが問題である。そこで今回の研究を通して、日本の観光地の環境評価をし、環境産業の需要につなげるとともに、観光地が住みやすいのか、持続可能な土地にしていくためには、どのようにしていけばよいのか研究することを目的とする。

C2　会場：C 会場　13:00－14:30
座長：木川裕（日本大学）

C2-1　会田晴香(埼玉女子短期大学)

かつてはＭＴ車のほうが優れていたが、1990 年代にＡＴ車が急速に普及したことを境に、日本中のＭＴ車保有率は下がっていき、現在ではＭＴ車保有率は 2．4%にまで低下した。本研究での対象車は、自家用車であり、バスやトラックは考えないものとする。自動運転技術の進歩についても絡め、日本の新車販売からＭＴ車は存続するのかについて明らかにすることを試みる。

C2-2　森杉珠姫(埼玉女子短期大学)

飲食業界では人手不足と人件費の高騰が問題になっており、非接触型のオーダーエントリーシステムやスマートフォンを利用したモバイルオーダーが活用されるようになった。ICT 活用によりフロア業務は軽減され、これまでリピーターのつかなかった店舗のリピーター増加が可能になる考えた。本研究ではリピーターを生み出すフロア業務のキーは Customer Experience にあると考え、提供される新たなサービスについて明らかにすることを試みる。

C2-3　葛西諒星,山田雄馬,直井勇樹(大東文化大学)

あらゆるスポーツにおいて、ICT 技術の活用によりスポーツ界に大きな影響を与えている。最先端の ICT 技術を用いることで今後のスポーツ界の発展につながると考えられるが現段階では一般に普及するまでには至っていない。このような技術が発展、活用されていくために、どのような課題を解決していく必要があるのかをサッカー、野球、バスケットボールの 3 種のスポーツに焦点を当てて、日本と他の一国を比較したうえで課題解決を考察した。

C2-4　小林和葉(埼玉女子短期大学)

モバイルオーダーにより非接触で注文が可能となり、消費者にとって便利な手段となっている。経営者は業務の効率化が進み人手不足の解消にも貢献している。一方、モバイルオーダーによる注文は、スマートフォン一つで行えるため、店頭におけるコミュニケーションは減少している。本研究ではモバイルオーダーの利用実態など、若者からデータを集め、モバイルオーダーシステムを導入することについて分析し、飲食店の今後を考察する。

C2-5　田中あみ(日本大学)

本稿では日本のキャッシュレス決済利用率，意識についてアンケート調査を実施し，その結果を基にキャッシュレス決済の現状を考察していく。また，現状キャッシュレス決済を利用しない層にデビットカードの推奨をし，日本全体のキャッシュレス決済普及率の向上と，経済産業省の掲げる日本におけるキャッシュレス決済の目標達成を目指し，今後の可能性を論ずるものである。

C2-6　都祭亜衣斗,青木和昭(立正大学)

新型コロナウイルスの感染拡大により私たちの生活は大きく変化した。そして，会食や会食時の会話等が感染リスクが高いとされていることから，飲食業界への影響が著しい。 本研究では，新型コロナウイルス感染拡大の影響による食への意識変化，飲食店への影響について調査し，今後，売り上げをどのように回復していくべきか検討する。結果として感染者数が増加すると宴会や会食が減少し，単品での注文の割合が増加するということがわかった。

C3　会場：C 会場　14:45－16:00
座長：永田清（大東文化大学）

C3-1　新井田勇人(日本大学)

本稿では，外出時における防災という観点から，スマートポールに焦点を当て，スマートポールの概要や防災戦略事例，課題，今後の展望を論じる。

C3-2　北爪凜人,青木和昭(立正大学)

我々にとって身近な運動である「散歩」。今回の研究では何気なく歩いている散歩経路でも日本全国をみくらべてみると意外な共通点や特徴が見えてくるのではないかと考え、日本国内に設定されている散歩コースのデータを調べて評価した。また、そのデータをもとに自分のオリジナルの散歩コースを作成した。

C3-3　孫武(日本大学)

今日において AI 技術は急速な発展を遂げており、各産業への影響が大きく、適切な法規制の確立が急務である。世界各国それぞれ異なるアプローチでこの課題に取り組んでいる。EU では世界初の AI 法案である AI Act を提案し、アメリカは AI 技術開発への投資を優先している。本稿では、これらの動向を踏まえ、日本の法規制の現状と国際的な枠組みとの調和をどのように進めているのか、またその違いについても考察する。

C3-4　小金丸雄貴,後藤真太郎,佐藤響平,田中優也(立正大学)

OpenWeatherMap から取得した気象データ用いた、風の流れの解析と CityGML を用いた日陰シミュレーションを行い、埼玉県熊谷市のクールスポットを抽出した。

C3-5　櫻井広幸,山下倫範(立正大学)

本研究では、大学での教育・テレワークやテレワークのニーズだけでなく、広く社会的課題ともなっている、少子化問題と介護問題との関連も指摘を試みている。すなわち、上記のような二大問題に対して、ＡＩ研究やロボット研究が非常に有効である分野であると考えられるが、さらにそこにおける心理学的アプローチを提起するものである。

ポスター　　会場：ポスター会場 12:30－13:00（コアタイム）

P1　田中雅章,長井多美子(愛知医療学院短期大学, ゆうあいクリニックデイケアセンター)

これまでの身体機能評価は、カルテに記録した測定値を転記し計算する必要があり、ミスの発生が懸念されていた。また、高齢者には評価値の意味を理解してもらうのが難しいという問題もあった。そこで、筆者らは身体機能評価を可視化するシステムを開発した。このシステムにより、高齢者にもわかりやすいグラフで身体機能の変化を確認できるようになった。このシステムは、デイケアセンターの業務効率化と高齢者への説明の向上に大きく貢献できると予想される。

P2　川島稜矢,白木洋平(立正大学)

本研究では、GIS を用いて火山防災マップに記されている溶岩流の到達範囲および時間の分布についてベクタデータ化を試みるとともに、避難場所や災害時要援護者（特に高齢者に着目）の情報を重ね合わせることで、避難場所が災害時要援護者にとって適切な場所であるか評価を試みた。その結果、現状の把握と問題点の認識を行うことができた。

P3　山田南欧美,田中雅章(愛知医療学院短期大学)

本研究では、自身が担当する科目において Web 小テストを実施し、小テストの結果および提出回数と最終成績の関係を比較することで、学生の学習行動を分析した。その結果、成績上位群は日頃から意欲的に取り組めていること、成績中位群はある程度授業内容について理解があるものの、学習姿勢を改善する必要があること、成績下位群は個人の学習では知識定着が不十分であり、適宜学習支援が必要であることが示唆された。

令和 5 年度 第 8 回 IIARS 全国大会 委員名簿

全国大会実行委員会

委員長	田中 雅章	愛知医療学院短期大学

全国大会運営委員会

委員長	次郎丸 沢	(株)OME
副委員長	青木 和昭	立正大学

全国大会審査委員会

委員長	鈴木 治郎	信州大学
副委員長	平 治彦	日本データパシフィック(株)
副委員長	田中 敏幸	慶應義塾大学
委員	青木 一雄	沖縄産業保健総合支援センター
委員	井上 孝之	岩手県立大学
委員	鎌田 光宣	千葉商科大学
委員	木川 裕	日本大学
委員	小堺 光芳	埼玉女子短期大学
委員	佐久間貴士	千葉県立保健医療大学
委員	次郎丸 沢	(株)OME
委員	辰島 裕美	金沢星稜大学女子短期大学部
委員	高見 友幸	大阪電気通信大学
委員	田中 雅章	四日市大学
委員	永田 清	大東文化大学
委員	星野 祐子	東海大学
委員	福田真規夫	太成学院大学
委員	保本 正芳	近畿大学

2023 年 IIARS 第 8 回国際ICT利用研究学会全国大会 講演論文集 2023 年 12 月 3 日発行

発行所 一般社団法人 国際ICT利用研究機構 194-0004 東京都町田市南町田四丁目 2 番 1 号 401
Phone (042)795-6517, Fax. (042)795-6517 E-mail office@iiiar.org

UCHIDA

未 FUTURE CLASSROOM®
来型学習空間をご提案します。

建築躯体に手を加えることなく ICT空間を容易に構築。

現在の授業では、固定されたテーブルに着いて一方的に話を聞く学習ばかりではなく、最新のICT機器を用いた授業や、PBL※などのグループ単位で能動的に活動するような授業が増えてきています。
そういった授業の中では、通常の「レクチュア」から、グループ毎に分かれて活動する「グループワーク」、成果を共有・発表する「プレゼンテーション」や「ふりかえり」といった場面の転換が必要不可欠です。
それぞれのシーンにマッチした空間セッティングへの変換が、スムーズかつクイックに実現できるこれからの教室、それが「FUTURE CLASS ROOM®〈フューチャークラスルーム®〉」の考え方です。

※PBL(Project Based Learning):授業形態の一つで「課題解決型授業」のこと。

「フューチャークラスルーム®」は、学校関係者や企業・研究機関とご一緒に新しい授業スタイルの研究開発・実証実験を行える場所として、新川本社ビル(東京都中央区)、大阪支店(大阪府大阪市)、九州支店(福岡県福岡市)に設置しております。ぜひ、ご来場ください。

内田洋行 高等教育事業部

たいせつにしています プライバシー 10480001

いい「学校・教育・授業」づくりを支援いたします。
http://school.uchida.co.jp/

東京 〒135-0016 東京都江東区東陽2-3-25 東日本営業部 ☎03(5634)6441
大阪 〒540-8520 大阪市中央区和泉町2-2-2 西日本営業部 ☎06(6920)2493

SOLIDRAY

私たちは創業37年目の　ＶＲ開発専門会社です。
あなたの会社のお悩みを　ＶＲの力で解決いたします。

ＶＲデモルーム＠横浜

横浜にあるＶＲデモルームにて、各種デモをご用意しています。
驚きの体験を ぜひあなたの目で確認してください。

プロジェクション型ＶＲ

３Ｄプロジェクターと３Ｄメガネ、
ヘッドトラッキングカメラを利用し、
実寸大の3ＤＣＧを体感できます。

ＡＲ空間共有

ＨＭＤを通して現実世界にコンテンツを配置し、複数人で同時にこの空間を共有できます。

インタラクティブ映像タップトーク

人の動きに合わせて映像が変わる、
インタラクティブ映像システムです。

３ＤスキャンＶＲ

３Ｄスキャンした実際の空間を、
ＶＲにより実寸大表示します。

ＶＲデモルーム見学のお申込み、お問い合わせは
メールまたはお電話で。ご連絡お待ちしています。

価値あるVR創造企業
ソリッドレイ研究所

〒221-0835
神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-20-1　YTUビル5階
Mail　pro@solidray.co.jp
TEL　045-324-6841
URL　https://www.solidray.co.jp/

株式会社カンファレンスサービス

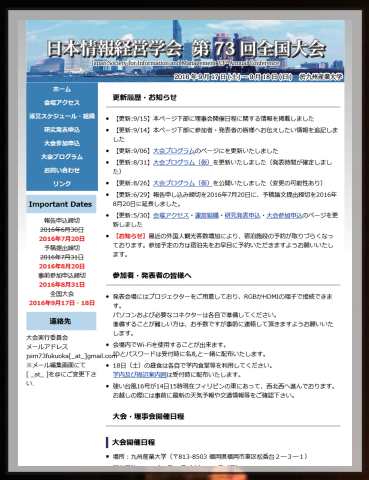
Conference Service Inc.

国内学会・国際会議をはじめとして、MICE（Meeting, Incentive Travel, Convention, Exhibition）のお手伝いをさせて頂いています。おかげさまで弊社も 12 期目となり、トップカンファレンスや予算規模の大きな学会を担当させて頂くことが増えてまいりました。

リピート率※
97.6%

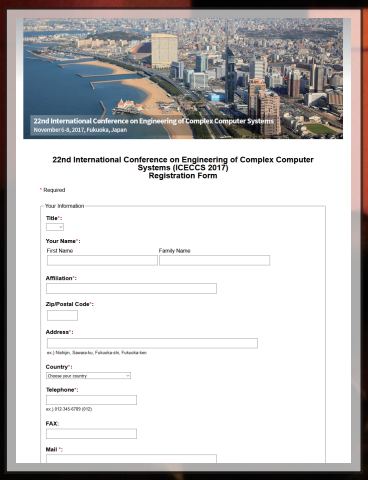
97.6% というリピート率はご利用頂いた方々からの評価であると同時に、今後の更なる進化への期待でもあると感じています。マイページ機能やハイブリッド対応、それに受付の QR コード導入など，新機能も毎年追加投入しております。今後も主催者の皆様に喜ばれるサービスの提供を目指して日々精進してまいります。

Web サイト制作



ポスター・チラシ制作

論文投稿および参加登録サイト制作



各種グッズ制作

カンファレンスバック

法被

手ぬぐい

※過去５年間に担当した 42 件のうち、41 件が担当者が同じ方もしくは団体が同一でした

株式会社カンファレンスサービス
〒814-0012　福岡市早良区昭代２丁目５－２４
Tel: 092-986-4867
https://conferenceservice.jp/